

郷土館発

時の
過ぎゆくままたま……

今年、平成三十一年（二〇一九）は特別な年です。それは、日本独特の元号が『平成』から『〇〇』にかわるからです。加えて、元号が変わることが事前に分かっていることも、特別なことと言えます。

明治生まれの方は、大正・昭和・平成・『〇〇』と五つの元号の中で暮らすということになります。また、昭和三十年前後に生まれた方は、今の時点で人生の半分が昭和で、あと半分が平成と言うこともできます。「激動の昭和」という言葉がありますが、平成全体はどのような言葉で表されるでしょうか。これからきつとテレビや新聞・ラジオ・ネット上で話題となることでしよう。そんなことを考えながら、ちよつと振り返ってみると、

平成五年 冷夏で米不足
平成六年 若しやち国体
平成十一年 長野オリンピック
平成十七年 愛知万博

設楽町ではということにしてみると、最大の出来事は、平成十七年の旧設楽町と津具村の合併です。この時の人口は、六、六〇八人（平成十八年一月一日現在）でした。平成三十一年の人口は、四、八三八人（一月一日現在）です。平成四年 新段戸トンネル開

通・中田クリーンセンター完成

平成八年 ふれあい広場温水プール竣工

平成九年 津具保育園開園・清嶺小学校開校・津具設楽海の家閉鎖

平成十年 津具グリーンプラザ竣工・天気予報区域が東三河北部となる

平成十三年 設楽中学校開校

平成十四年 完全学校週五日制

平成十五年 電話番号の局番が各地区変わる

平成十六年 ふれあい広場の多目的広場完成

平成十八年 町の木「ブナ」、町の花「シヤクナゲ」決まる

平成十九年 広域農道奥三河線（名倉く津具）開通

平成二十五年 マスコットキャラクター「とましーなちゃん」誕生

平成二十六年 役場新庁舎完成（広報したら、郷土館作成年表から）

視点を變えて日常生活では、「チーン」が、電子音になった

「チンする」が共通の意味になつていますが、その音が今では電子音に変わつてきています。電子レンジだけでなく湯沸器、炊飯器、冷蔵庫、ガスレンジ、石油ファンヒーター……、台所は電子音だらけです。それも何回も鳴るので、いったい何が鳴っているのか分からなくなる時

があります。

リモコンが増えた



以前はせいぜいテレビとビデオデッキだけだったので、それにDVDデッキ・照明のリモコン、エアコンのリモコン、コードレスの電話器と一緒に転がっていて、エアコンのリモコンをテレビに向けている、なんでもあります。

これらのことがいつ頃からかは、はっきりしないのですが、たぶん平成になつてからのように思われます。（主観ですが）

時の流れに沿つて変化の時を特定できる場合と、生活が少しずつ便利になり、気づかないうちに音や物が増えていく場合があります。そしてその変化によつて無くなつていくものもありますが、その無くなつたものの価値や存在意義を考える事はあまりありません。これが現代の生活の變化・進歩のひとつの姿なのかもしれません。

（奥三河郷土館長

渡邊 俊也）